

II 具体的方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進



(1) 読書に親しむための人づくり

子どもが本と出会い、本の楽しみを知るためには、家庭の役割が大変重要です。家庭で子どもと一緒に本を読んだり、図書館に出かけたりすることが、その後の子どもの読書習慣に大きな影響をあたえます。また、家庭での読書活動の取組は、家族間のコミュニケーションを深めることにもつながります。

○ ファミリー読書の推進 **重点取組①**

家庭は子どもが本と初めて出会う大切な場です。家庭における子どもの読書活動の意義や重要性について、家庭での読書活動例の紹介などにより、広く理解してもらうことが大切です。

そこで、第二次計画に引き続き、毎月第1日曜日を「ファミリー読書の日」として位置づけ、ファミリー・コミュニケーション運動^{*1}の中でのイベントやPTAの会議等あらゆる機会をとらえて、ファミリー読書の重要性を周知します。また、学校や公立図書館、関係機関等と連携し、各機関が発行する情報誌やチラシ、新聞紙上等にファミリー読書の記事を掲載し、ファミリー読書の一層の推進を図ります。

《家庭での読書活動例 ①》「子どもの成長に応じた読書のススメ」

子どもにはどんな本との出会いが大切なのか。ここでは子どもの発達段階における特徴についてふれ、その成長にふさわしい読書活動のヒントとなるよう、まとめてみました。



① 乳幼児期（0歳～5歳頃）

乳幼児期は、本と初めて出会う大切な時期です。また、本は親子のふれあいや、コミュニケーションを図る手段となります。例えば、保護者が「わらべうた」や「手遊び」など、子どもとのコミュニケーションを図りながら、読書への関心を高めることで、より感性豊かな子どもをはぐくむことにつながります。

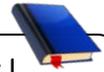
② 児童期（6歳～12歳頃）

児童期は、自ら本への関心を高め、読書習慣を身につけていく時期です。子どもが本にふれる機会を多くし、知ることの楽しさを感じることが大切です。例えば、日常生活の中で話題になっていることや学校での学習のふりかえりなどをおして、保護者は子どもと一緒に調べたり、地域の図書館や書店と一緒に出かけたりして、子どもとともに読書に親しむことが大切です。

③ 青年期（13歳～18歳頃）

青年期は、社会の変化に敏感であり、また、大人に近い視点をもつようになる時期です。さらに、テレビやインターネット等のメディアの影響を受けやすい時期でもあります。親子で一緒の本を読み、感想や意見を対等に述べ合うことは、子どもとのコミュニケーションを図ることにつながります。また、子ども自身が自分の考えを形成する機会にもなります。

*1 ファミリー・コミュニケーション運動 … 4ページ参照



《家庭での読書活動例 ②》「夜ねる前の 10 分間読書～よんどくのススメ～」

就寝前の 10 分間程度を家族みんなで読書をする時間に見ていただこうでしょう。

例えば、就学前や小学校低学年の子どもには、保護者が読み聞かせを行い、また、子どもが自ら進んで読書をするようになったら、家族で同じ作品を読み、感想を述べ合うとコミュニケーションも深まります。

○ ブックスタート関連事業の推進

市町村では、子育てに関連する部署と連携し、ブックスタート事業^{*2}のほか、乳幼児健診時におはなし会や読み聞かせなどを行うところもあります。これらの取組について情報収集し、ホームページ等で広く紹介することにより、関連事業の推進を図ります。

取組目標

★ブックスタート関連事業実施市町村

(平成 25 年度 : 25 市町村 → 平成 30 年度 : 33 市町村)

○ 市町村図書館の取組事例の情報発信

プレママ・プレパパ^{*3}に向けた講座や親子で一緒に参加できる講座など、市町村図書館が開催している家庭での読書活動にかかわる取組事例を収集し、市町村図書館向け情報誌への掲載などにより情報発信します。

《市町村図書館の取組事例》 うちどく（家読）の推進（湯河原町立図書館）

湯河原町は「うちどく（家読）」といって家族で好きな本を読み、読んだ本について家族で話し合うことで、読書の習慣づくりと家族のコミュニケーションを図る取組を推進しています。また、世代ごとに「おすすめブックガイド」を作成し、家庭での読書の取組を支援しています。



○ 保育所・保健センター及び放課後児童クラブ等における啓発

市町村に協力を依頼し、乳幼児をもつ保護者に対し、保育所や保健センターなどを通じて、家庭での読書活動にかかわるチラシ等を配布することにより、子どもが本に親しむことの大切さについての理解の促進を図ります。

また、放課後児童クラブや放課後子ども教室に通う子どもを通じて、その保護者に対しても、子どもの読書活動の重要性について周知を図ります。

*2 ブックスタート事業 … 4 ページ参照

*3 プレママ・プレパパ … 妊娠している女性とそのパートナーを言います。

○ 「子ども読書活動推進フォーラム」における啓発

県立図書館が主催する「子ども読書活動推進フォーラム」において、子どもの読書に関する専門家の講演や事例発表等、家庭における読書の重要性についての理解が深まるような内容で組み立てます。

○ 生涯学習指導者研修「読書活動実践コース」における啓発

県立図書館が開催する生涯学習指導者研修「読書活動実践コース」において、子どもの読書活動にかかわる図書館・公民館等の職員、読書ボランティア、教職員等に対し、家庭における読書の重要性についての理解の促進を図ります。

(2) 読書に親しむための環境づくり

子どもが本と出会い、本に親しむ環境をつくるには、大人が子どもに対して、本と親しむ場を積極的に提供していく必要があります。

○ ブックリストの作成と活用 **重点取組②**

乳幼児期、児童期、青年期の各世代の子どもたちに向け、子どもが読みたい本、大人が読ませたい本をまとめたブックリストを作成します。また、活用の促進に向け、市町村や公立図書館、関係機関等にブックリストを配付するとともに、学校や県民がいつでも利用できるように県のホームページに掲載します。

○ 優良図書の普及啓発

神奈川県児童福祉審議会推薦の優良図書^{*4}の広報用リーフレットを作成し、県内の公立保育所やすべての幼稚園、学校、書店、公立図書館等に配布し、優良図書への関心を高めることにより、家庭で本に親しむきっかけづくりを進めます。



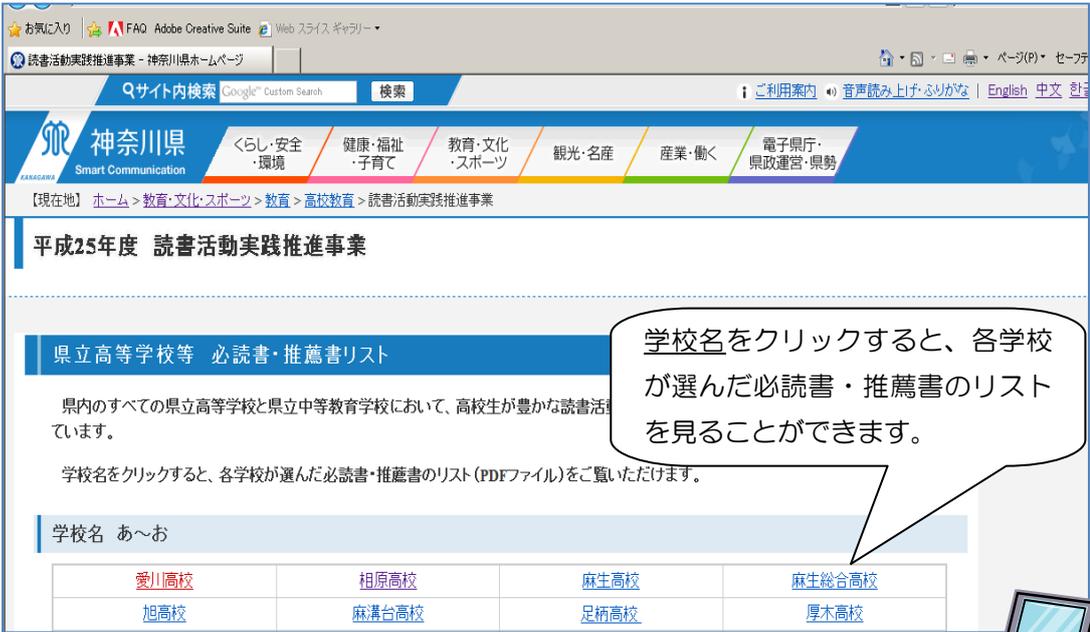
平成 25 年度
「優良図書」リーフレット

*4 神奈川県児童福祉審議会推薦の優良図書 … 神奈川県児童福祉審議会とは、児童福祉法に基づき設置された県の附属機関です。この審議会には5つの部会があり、そのうちのひとつである「社会環境部会」で、児童の健全育成に資するものと期待できる図書を優良図書として推薦しています。(38 ページ参照)

○ 高等学校等における必読書・推薦書リストの公開

高等学校等は、読書への関心が高まるよう、生徒や家庭に向けて必読書・推薦書を選んでいきます。学校ごとの必読書・推薦書を県のホームページに掲載するとともに、各学校は、家庭に対してホームページを紹介することにより周知を図ります。

◇ 「県立高等学校等必読書・推薦書リスト」閲覧ホームページ
(<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f360812/>)



学校名をクリックすると、各学校が選んだ必読書・推薦書のリストを見ることができます。

学校名 あ〜お

愛川高校	相原高校	麻生高校	麻生総合高校
旭高校	麻溝台高校	足柄高校	厚木高校

○ 電子機器を利用した読書の啓発

近年は、パソコンやタブレット型情報端末^{*5}等の電子機器を利用し、効果音や読み聞かせ機能などを活用しながら読書を楽しむことができます。

特に、特別支援学校では、多様な形態による読書活動への理解を深めることが効果的であることから、家庭に向けて電子機器を利用した読書について、周知を図ります。

^{*5} タブレット型情報端末 … 液晶ディスプレイ等の表示部分にタッチパネルを搭載し、指で操作ができる携帯端末のことです。(35 ページ参照)